

Akashi College		Year	2017	Course Title	アクティブラーニング入門
Course Information					
Course Code	0010	Course Category	General / Compulsory		
Class Format	Seminar	Credits	School Credit: 1		
Department	Architecture	Student Grade	1st		
Term	First Semester	Classes per Week	2		
Textbook and/or Teaching Materials					
Instructor					
Course Objectives					
<p>■課題を発見し、定義する方法を身につける</p> <p>□グループワークの中で</p> <p>(評価項目1) グループワークにおいて、課題を発見するための方法を説明することができる。</p> <p>(評価項目2) グループワークにおいて、リーダー、ファシリテーター、メンバーとして振る舞うことができる。</p> <p>□各学習活動の中で</p> <p>(評価項目3) 異なるタイプの学習活動において、自らをアクティブにする方法について説明することができる。</p> <p>(評価項目4) 異なるタイプの学習活動において、自らをアクティブにすることができる。</p>					
Rubric					
	理想的な到達レベルの目安	理想的な到達レベルの目安 (良)	標準的な到達レベルの目安 (可)	未到達レベルの目安	
評価項目1	2つ以上の具体的な場面を設定でき、その中で課題発見・定義を促すための3つ以上の役割について説明することができる。	2つ以上の具体的な場面を設定でき、その中で課題発見・定義を促すための3つの役割について説明することができる。	1つの具体的な場面を設定でき、その中で課題発見・定義を促すための3つの役割について説明することができる。	1つの具体的な場面を設定できるが、その中で課題発見・定義を促すための役割について説明できない。あるいは、課題発見・定義を促すための役割を1つ挙げることができるが、具体的な場面を設定できない。	
評価項目2	2つ以上の具体的な場面の中で、課題発見・定義を促すために、異なる2つ以上の役割において貢献することができる。	2つ以上の具体的な場面の中で、課題発見・定義を促すために、異なる2つの役割において貢献することができる。	1つの具体的な場面の中で、課題発見・定義を促すために、1つの役割において貢献することができる。	課題発見・定義を促すために貢献できない。	
評価項目3	2つ以上の具体的な場面を挙げ、その中で自らをアクティブにするための3つ以上の方法について説明することができる。	2つ以上の具体的な場面を挙げ、その中で自らをアクティブにするための2つの方法について説明することができる。	1つの具体的な場面を挙げ、その中で自らをアクティブにするための1つの方法について説明することができる。	1つの具体的な場面を挙げることができるが、その中で自らをアクティブにするための方法について説明できない。あるいは、自らをアクティブにするための方法を1つ挙げることができるが、具体的な場面が挙げられない。	
評価項目4	2つ以上の具体的な場面の中で、3つ以上の方法において自らをアクティブにすることができる。	2つ以上の具体的な場面の中で、2つの方法において自らをアクティブにすることができる。	1つの具体的な場面の中で、1つの方法において自らをアクティブにすることができる。	自らをアクティブにすることができない。	
Assigned Department Objectives					
学習・教育目標 (D) 学習・教育目標 (E)					
Teaching Method					
Outline	「アクティブラーニング入門」は、課題を発見し、定義するための方法について学ぶ科目です。課題発見は「どうなっているのかな?」「なぜだろう?」と問いかけることから始まります。このような疑問を持つためには「あたりまえ」を問い返すことが重要です。ではどうすれば「あたりまえ」が見直せるでしょうか。そのための重要な方法の一つに「対話」があります。自分一人では気がつかないことも、違う見方をする他人と話し合うことによって気づくことができます。しかしもちろん、漫然と話し合っているだけでは気づきは生まれません。気づき=課題の素を生むための話し合いには方法があります。その方法を身につけていくのがこの授業です。そしてさらに、見つけた気づきをカタチにしていけるためにも方法があります。そこでこの科目では、グループでの話し合いに焦点をあて、これらの方法を体験しながら、身につけ、課題発見・定義につなげていきます。				
Style	いくつかの方法を体験し、それを意識化する(言語化する)という方法で学んでいきます。例えば、グループでの話し合いの中で、リーダーやファシリテーターの役割を担ってみる、メンバーとしてグループに貢献するなどを行い、実際にどういう風に振る舞ったのかを言葉にしていきます。また、グループでの話し合いだけでなく、ペアでの話し合い、体を動かす、講義を聞くなど、よく起こるいくつかのタイプの活動の中で自らをアクティブにする方法を体験していきます。				
Notice	この授業に求められるのは、授業への積極的な参加と、その時点で自らが持っている力を素直に振り返る態度です。また、他の授業への参加態度を振り返ったり、課題図書を読んだりなどの授業時間外の活動(宿題)に取り組む必要もあります。				
Course Plan					
			Theme	Goals	
1st Semester	1st Quarter	1st	これまでのグループ活動を振り返る	これまでに行ってきたグループ活動の特徴を説明することができる	
		2nd	課題を見つけるグループ活動①-1 リーダーの役割	リーダーの役割を説明できる	
		3rd	課題を見つけるグループ活動①-2 リーダーの役割	リーダーとして振る舞える	
		4th	課題を見つけるグループ活動②-1 ファシリテーターの役割	ファシリテーターの役割を説明できる	
		5th	課題を見つけるグループ活動②-2 ファシリテーターの役割	ファシリテーターとして振る舞える	

2nd Quarter	6th	課題を見つけるグループ活動③-1 メンバーの役割	活動に貢献できるメンバーの役割を説明できる
	7th	課題を見つけるグループ活動③-2 メンバーの役割	活動に貢献できるメンバーとして振る舞える
	8th	中間試験	それぞれの役割の特徴を説明できる/これまでに行ってきたグループワークとの違いを説明できる
	9th	これまでの講義受講時の振る舞いを振り返る	講義受講時にこれまでに自らがとってきた活動の特徴を説明できる
	10th	講義の中で自らをアクティブにする方法① 講義中の活動	講義受講場面において、自らをアクティブにするための方法を実践できる
	11th	講義の中で自らをアクティブにする方法② 事前活動	講義受講中に自らをアクティブにするために事前にしておくことを挙げ、実践できる
	12th	講義の中で自らをアクティブにする方法③ 事後活動	講義受講中に自らをアクティブにするために事後にしておくことを挙げ、実践できる
	13th	課題発見・課題定義の練習①	練習場面において自分に適した役割・そうでない役割を挙げるができる/自分の役割で機能的に振る舞える
	14th	課題発見・課題定義の練習②	練習場面において自らをアクティブにできる
	15th	課題発見・課題定義の練習③	練習場面においてこれまでに学んだことを総合して適用できる
16th	期末試験	それぞれの役割の特徴を具体的な場面を設定した上で説明できる/課題発見・課題定義の場面において自分に適した役割とその理由について説明できる	

Evaluation Method and Weight (%)

	試験	パフォーマンス	相互評価	ポートフォリオ	Total
Subtotal	30	30	20	20	100
基礎的能力	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0
分野横断的能力	30	30	20	20	100